

教 育 資 料

平成11年度第2号

不登校や学習障害等を示す 児童生徒への援助・指導

- 事例研究のまとめ -

平成12年3月

京都府総合教育センター

刊行にあたって

改訂学習指導要領移行措置の実施を控え、各学校において、「生きる力の育成」「心の教育」「個に応じた指導」をはじめ多様な教育課題への対応が迫られています。

京都府総合教育センターでは、課題の一つである不登校を取り上げ、その一要因として推測される学習のつまずきと学習障害との関連を探り、不登校の予防と援助に学習障害への対応を生かす方法を見い出すため、「不登校や学習障害等を示す児童生徒への援助・指導に関する研究」として、2年計画で取り組んできました。

この研究は、当センターにおける、平成6・7年度の「登校拒否の予防と援助・指導に関する研究」（トータルアドバイスセンター事業の一環）、及び平成8・9年度の「学習障害（LD）を含む学習困難な児童生徒の指導方法に関する研究」の研究を結合し、それらの成果を踏まえたものです。

昨年度は、児童生徒が、原則として400名以上在籍する府内の小・中学校の協力を得て、不登校等の児童生徒の学習や社会性についての調査を実施しました。その結果、不登校等の児童生徒の中に、学習障害等への対応を生かして援助・指導を行う必要のある児童生徒が存在することが分かりました。

その成果に基づき、今年度は、各教育局管内から1ないし2名の研究協力員（所属は小学校または中学校）を委嘱し、府内の状況を踏まえた事例研究を行いました。

本教育資料は、その研究成果としてまとめた援助・指導事例集です。

各学校で、この教育資料が有効に活用され、一人でも多くの児童生徒への援助・指導に役立てられることを期待いたします。

また、この研究成果は、研修・啓発及び相談事業にも生かしていきたいと考えています。

最後になりましたが、研究の推進に当たり、多大な御協力をいただきました関係教育委員会、各教育局、京都教育大学並びに研究協力員の先生方に厚くお礼を申し上げます。

平成12年3月

京都府総合教育センター
所長 村田 伯義

目 次

第1章 はじめに

1 研究の主題	1
2 研究の目的	1
3 研究の仮説	1
4 研究の方法	1
5 本研究の用語の概念	1
6 本書の構成	2

第2章 事例集

事例1 LDが疑われるA男(小学5年生)	5
事例2 突然教室の窓から渡り廊下に飛び移ったりするB男(小学4年生)	7
事例3 弟には姉、母には赤ちゃんのように振る舞うC子(小学5年生)	9
事例4 トイレを済ませた日は登校できるD男(小学5年生)	11
事例5 「です」「ます」調で会話することがあるE男(小学6年生)	13
事例6 ADHDと非言語性LDが疑われるF男(中学2年生)	15
事例7 娘の異質さを受け入れにくい母親をもつG子(中学3年生)	17
事例8 予定が変わると不安定になるH男(中学2年生)	19
事例9 別室登校で、かかわってもらった存在から、かかわる存在に成長したI男 (中学2年生)	21
事例10 障害児学級に入級して、不登校傾向を克服したJ男(中学3年生)	23

第3章 事例から学ぶ

Q1 学習不振のため不登校等になっている児童生徒で、その背景にLDまたはLDかもしれないことがある場合がありますが、その援助・指導においてそのことを踏まえる必要があるのはなぜですか。	25
Q2 「LDかもしれない」と推測できるのはどんな場合ですか。	26
Q3 不登校等の背景に学習不振があり、それがLDに起因すると推測される場合、その援助・指導における留意点は何ですか。	27
Q4 保護者との連携ではどのような工夫や留意点がありますか。	28
Q5 学級や学年の他の児童生徒への指導における留意点は何ですか。	29

第4章 研究のまとめと課題

1 研究のまとめ	30
2 課題	31

資料

1 事例に関するその他の資料	32
2 用語の解説	34